

# いの流水俳壇

友草 水月選

## 「当季雑詠」

仮住みの終を見上げる注蓮飾り

片岡 包女

(評) 仮住まいをしている家の玄関に注蓮飾りをし、この仮住まいも最後となるかと感慨深く見上げている。仮住まいであつても長年住んだ家、思い出が一杯詰まっているのである。

東日本大震災の津波や原発の放射能被害

でまだ多くの方が仮設住宅で正月を迎える。また豪雨災害で避難生活を余儀なくされている人もいる。どんな思いであろうか。遠く被災者の方々に思いを馳せているのである。「注蓮繩」の「しめ」とは占めるの意で神が占有している場所という意味である。

○ 仰ぎ見る大々飾出雲様

杉田 久女

一人居もそれなり忙し年の暮

小野川町子

(評) 十二月も押し詰まってくると新年を迎えるための用意で何やかやと忙しくなる。一人居でもそれなりに忙しいと詠んでいる。確かに大勢の家族がいると忙しいのは当たり前と思うが、部屋の片付け、普段に手の届かない押入れ、トイレ、風呂など家族が五人いればそれぞれ手分けして仕事ができるが、一人の場合一応一人で全部やらなければならぬので結構忙しいのである。それなりに忙しいと作者は自分の気持ちをもよく詠んでいる。

○ 出歩きて無用の用や年の暮

山崎 房子

枯菊に感謝持ちつつ手刈する

森岡 照月

(評) 今年は見事に咲いて楽しませてくれたが、時雨や霜に傷つき枯れてゆく菊。その盛りが華やかであつただけに感慨が一層深い。枯れてしまった菊にありがとうと感謝の気持ちを捧げて鎌で刈らず手で刈り取つていたのである。作者の菊に対する愛着と敬虔な気持ちがよく出ている。

菊と言えば秋の季語であるが枯菊と言えは冬の季語。なお枯落葉、枯葦、枯芝、枯草など枯がつけば冬の季語である。

○ 枯菊になお愛憎や紅と黄

久保より江

柿落葉並び変えては時忘れ

國田 貞子

(評) 庭に柿の木があるのであろうか。柿落葉を拾つていろいろな形や模様と並べて楽しんでるうちすっかり時間が経つのを忘れていたのである。

柿落葉は紅葉したのもあれば複雑な模様をしたものもあり中には虫食いの穴などあつて侘しさを誘う。これらの葉をいろいろと並べ工夫して楽しんで夢中になって童心に返つての遊び心が楽しい。

○ 表より裏がひかりて柿落葉

筒井 誠

二句抄

川に添い日射やわらか草紅葉

津田 久美

狭庭にも小さき宇宙銀杏散る

田蔦恵美子

寒波来てしぼり足らざる台ふきん

川村 博子

母の忌や夕日映える石落の花

病歴の話に及ぶ日向ぼこ

母の忌や夕日映える石落の花

カトリアの二輪咲いたる窓明り

岡村 嘉夫

黄水仙タオル首巻く庭手入れ

竹崎たかひろ

侘助の花と語ろう独居老

間 浩太

ふんわりの着地の種の冬近し

大川 節弥

トンネルの切れ目切れ目の紅葉濃し

小野川町子

人を消し村消して増ゆ泡立草

片岡 包女

一坪の菜園にある冬日かな

森岡 照月

秒針が最後の一秒大晦日

友草 水月

里人にころ許して冬の鶯

松尾 芭蕉

美容院出てしばらく懐手

松尾 芭蕉

好きな本読み耽けりたりし日向ぼこ

松尾 芭蕉

ふり向けば何をか云わん返り花

松尾 芭蕉

小春日の街騒重き杖を引く

松尾 芭蕉

無住寺の一角か々と柿の熟

松尾 芭蕉

初時雨猿も小蓑を欲しげなり

松尾 芭蕉

季節初めての時雨が降ってきた。猿も小さい蓑を欲しそうにしている。

芭蕉が故郷伊賀上野へ向かう山道で遭遇したその情景を的確に捉えた名句である。

自分も猿も初時雨に濡れてぼうつと煙つて動かない。雨を凌ぐものを猿も欲しいに違いないと思つたが本意は初時雨であつて日本古来の「わび」「さび」を感じ俳聖芭蕉も、落葉の上に降る初時雨の音に人生の淋しさを噛みしめたことであろう。

古くから詩歌の世界では「時雨」は侘しものとされてきた。

次 題 「当季雑詠」五句

締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

☎ 89312012

いの町3597

### ◆DV被害者のための電話相談のご案内◆ DVは、配偶者や恋人に対する体や心への暴力のことです。

相談先	高知県女性相談支援センター (配偶者暴力相談支援センター)	こうち男女共同参画センター 「ソーレ」	警 察
対象者	女性、DV被害者である男性	女性、男性	暴力被害者
電話番号	☎ 833-0783	女性向け ☎ 873-9555 男性向け ☎ 873-9100	お近くの警察署又は県警本部 生活安全企画課 (#9110又は☎823-9110)
相談時間など	平日 9:00~22:00 土・日・祝日 9:00~20:00 (年末年始は休み)	女性向け 9:00~17:00 男性向け(予約制) 第1、3火曜日 18:00~20:00 (第2水曜日、祝日、年末年始は休み)	夜間・休日は、当直員対応 緊急の場合は、110番へ